結題百首聞書

藤川百首注

宗長・宗牧・宗碩聞書

伊地知文庫
文庫20
275

古川藏書

文庫20
295

結題百首

[illegible]八号雑題たいつう結題と八字題をとりこし
し百首を和歌ふくけいこと作りこの清道作之

宗長法師書
[illegible]
[illegible]

関路早春

[illegible]
[illegible]
[illegible]

元やハやきとと
ハ
ゆ子ヒとせ〜ミ云
ゆ 兼十月
清原とり上ケ
百ニあり

こゝ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

[illegible]可見[illegible]
二本の枝[illegible]
枝のごとくあり[illegible]
神[illegible]

[illegible]

羅中図賞

[illegible]撰上　遊車八[illegible]
[illegible]
族の名）[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

衣[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

隣家竹賞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山田なる[illegible]
[illegible]歌八[illegible]
の[illegible]

野外殘雪

[illegible]八時乃雪の消て[illegible]梅[illegible]神[illegible]
[illegible]之歌 [illegible]日野の若菜[illegible]
神梅[illegible]人の[illegible]歌[illegible]読[illegible]無
[illegible]菜[illegible]乃[illegible]野[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]八[illegible]
[illegible]神梅[illegible]

人の[illegible]面白歌なり[illegible]字[illegible]廣乃[illegible]
余情也[illegible]字[illegible]

山路梅花

色も香も[illegible]八[illegible]梅の花[illegible]春[illegible]
梅の花白春[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

梅薫 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水邊古柳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢物語より水沢川のほとりなる八橋を作る

[illegible]

八橋より乃糸をかけまくをとて小野の玉柳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

養得自為花又毋洗来寧辯藥君臣被詩の
登あり今案本の方も其のとおりなれども
元の写本も春八花とあり又
新のいさかりたる孫八物なり（けりつかさ）
ありとあり（ものあり）ものあり寧市畫寢
といふて也書は夏初新秋元
のあるよりは寢るに侍りめてなりて本の月に
なり花も咲きなどいとこんなり二人に又云
四方山よりこの方面面の場にてなり
花のあるまん

野花留人

（ちなみに手枕まくらハ花ハ花ハ
花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ
花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ
花ハ花ハ花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河上春月

行春

春の夜の八聲鳥も帰雁

深更帰鴈

春の夜の月の光に花たちの

春の更ふかしかさ寒の鳥の

去云春の月の
あるかなきかと花の
まがうて霞の
間しかり
遠方河上の霞
春の立ちたち
下ハしやせのやう
春の光張の
ようなり

去云春夜の八
聲ハ鶯の
鳴ぬいきを主
ようなり 第十月

去云春夜の月
ハ朧ことを主
ようなり

去云春花の
光ハ春月に
三月ハ春風
月ハ春の
ようなり

第十月

去云ハ花ちらの
春雨ハ春月
ようなり

去云春の月の光に花の
春の更ふかしかさ寒の
鳥の声ハ春月
ようなり

春の夜の月の光に花の
春の更ふかしかさ寒の
鳥の声ハ春月
ようなり

去云春の月の
光に花の
春の更ふかし
かさ寒の
鳥の声ハ春月
ようなり

去云春の月の
光に花の
春の更ふかし
かさ寒の
鳥の声ハ春月
ようなり

春の夜の月の光に花の
春の更ふかしかさ寒の
鳥の声ハ春月
ようなり

春の夜の月の光に花の
春の更ふかしかさ寒の
鳥の声ハ春月
ようなり

去云春の月の
光に花の
春の更ふかし
か

言葉をかけたりしらるる所なり

船中暮春

きくの花霜をこのく反丹はなをしたれ
を雖の壁なりとをを吹く言う吹くに吹く
雖も我なりとてく言の別とかけ出ぬ
きくを人りやあるとかけ歌人なり又云
畫乃人之をのさうひとを春はかさうなり

卯花隠路

卯花乃枝もあはれ家をみよこの人の昔吹ハ
業平小野へ入ぬまいまし人を持く侍る

その時をかさ分くれ出てかくよりて古
はれ来るなりしかくく考えけり奇に雪のはり
は我人なるかの物なり春時乃淚ハ夏
卯花とその時物を分し雪に侍りを非妙なり
をの也古ふるいく壁ふく荒廃離見露秋蘭
辺水詞関風老捨悲この詩と家を蘭のなをみ
アル小作り出はなまく又為家の奇に卯花乃
形りく人の過ぎ分し雪物を分し小野乃古道
はかりも是とこの山乃又云載安道月賞とハ
文云去設に仕用のし荒元なの
毎ひ〳〵何志雖述言語歌やう

初岡郭公

きのふこそ霞たつ時鳥又ありて聞く古声

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の伝へとなん聞つたへしかは又云夢又字
異日入て可見

盧橘驚夢

袖乃書ハ丈れ花と殘しと拙く清しかさ夢は清
風吹く夢に別所に寄て雅(つとめ)雅(つとめ)天人の
云と雨く後ら見て人乃神の書を橘よ殘しと
夢を言ふ夢を言ふ夢を言ふ夢を言ふ又云夢を言ふ
りんかり可清師説

杜五月雨

俊(はるかぜ)は春風にて有時京にて花の来
るを人のとゝく立て所不のなは毎し後なく乃

第六ハ五月
みは俊の
神のまゝや枝
の三つ家
つゝみ

春をとゝまて五月雨なりくしらん清きまて
俊成卿よ御つゝ聞へさ俊人の三つ人を
有雨の夜足せんする所(ところ)

野夕菖蒲草

わすれ草乃とゝくうゝ葉たゝ中に孔れ中ら菖蒲草
思へとも思ふ詠れよの奇と三日乃孔よハ雲言う
拾ふ人は生て孔河を生て形雲清也
わすれ草ハ乃葉(ハ)又云切奇ハ子細わすれ孔ら
しき奇ハ何思へ孔ふ孔生ら孔ら孔ら孔ら
菖蒲草ハ乃孔ら

洞庭螢火

とゝくうゝ葉乃
孔しらとゝ
何とゝいふと二
ふ乃ゝ
云ふ
菖蒲草

亜云
蛍又雲丸云
それハ虫の名
谷うつると読ム

日新たなる心地して敬まるし谷て虫の立也ケ
光なき谷の底まで照らすなれハの人ゆゑ叫ぶ姿
世を日新と思ふ事も稀なるに雲ハ又来りて
物すれハ日新たなるハかりの唯雲ハ新たなる
のしるしの変すれ恨を哀ぶ

行路夕立

夕立よ神も雨降り哀ふらん遠方の雲
世ハ雨のふる哀叫ぶ我袖の雲ハ
とほりて行やうよ雲もふりの涙絶ぬ

初秋朝風

物毒ハ秋もふるなる花ハ風の人ハ
秋ハ叫ぶ風のふるうと意のつよふ(ハ)
ふれハ類ふ〜〜 暑ハ
叫ぶ花ハ遊のふ(ハ)ん(ハ)ぶ(ハ)これらとまるふ(ハ)ふ又云
ふるふ(ハ)ふ(ハ)ふ(ハ)ふ(ハ)の字詞とまるて中ふの人ハ
早ふ花ハ面白祈世ハ蓮ふ秋のふ(ハ)を鈴
の風ハ人ふ(ハ)ふ(ハ)ハ清ふ(ハ)ふ(ハ)ふ(ハ)

[illegible]

野辛久萩

妙萩よ玉ゆらく那遍妙久家とくくんさ玉寄こ

萩花玉ゆらくしたれて玉ゆらくこしれて枝こ

見たくいつ色宿助こ取くとけるとけるとけ

ゆくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中[illegible]

麻[illegible]　東友

[illegible]行[illegible]の我友を東嶋麻乃庭の[illegible]

君[illegible]道行の[illegible]

[illegible]

[illegible]

墨染　持衣

霧霜の[illegible]

[illegible]

[illegible]

以離下図出

[illegible]

鳥のなくこゑからはつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅葉浮水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の光ありて乳の色の夢ゆめしく持ち濃ゆき

河邊菊花

大井川君が心に染まばや花の色ぞ秋の波の常盤

波の常盤

也菊の花よりもなほ濃き色みな濃の花の

不変の花を秋の

菊の花の色は白きもの菊の花の色は白きもの菊の花の色は白きもの

秋の菊の花の色は白きもの

別の引きに数ならぬ

二首

秋の菊の花の色は白きもの

菊の花の色は白きもの

菊の花の色は白きもの

[illegible]

[illegible]

古寺初雪

[illegible]（今年初雪）

[illegible]

龍門寺と云ふ伊勢の何山昨日布引の瀧の大方消えて

[illegible]

何人か[illegible]

書地是龍門跡水釜甘露家[illegible]

庭雪歌人

我宿は今日[illegible]

適昨寺に適[illegible]

[illegible]

海邊雪

[illegible]

住吉雪

[illegible]

諸寺國基[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寒夜水鳥

[illegible]

嵐暮 洞水

今宵[illegible]の神[illegible]谷の水乃下ふまろん
谷風よ[illegible]氷[illegible]
[illegible]歌[illegible]
[illegible]
[illegible]

神[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

里人[illegible]也見ゆ[illegible]

[illegible]

関契恋慈

梅乃霜よ秋風の[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾てたちしひけるまに時ゝさまを移さるゝ云
伊勢物語の詞を猶留り又門出洗河を所被
の歌を引ゝいはるゝ甚上なるまに品々そ
行つゝ山路を越よ是いかゝ成てハいのちを
を逢事をなりて時ゝさを移さるゝ為
長歌

旅宿逢恋

立田山其の紅葉の錦をもて旅寝に露を置ま
大和物語に大和ちかきはけ人のむすめ
をもとめ京に来りまかりこしすみけるに
うつらまるゝ馬のとくいかせり日
暮て龍田山をこえてありなるの井に行てを
ゝ
為て物思ふに女松を分て行すと
なりし男も物思ふらいと
あるみを拾はけるに
帰る憂ゝ
行水の
龍田山岩根を行て
ゆ行の河ゝ
故ゝ
侍
侍

葛獄暁恋

今夜ふ暗に山ゝ宿ゝ暁ゝ夢ゝ覚ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

立ちひく清き志賀の浦なれば
かすみ世にあらく讀る哉
なるまで是を志賀の風のみ

被獻賜歌

色ふかきいなの海より出る桜
百の葉よ是八乃山桜
うつもれるとも 中宮寮 紅濃
袍のさく紙と五位の袍
まや今新勅撰 袍の
紅梅殿より 袍の
夕雪雲井乃庭 物

春の社頭

なりひら

世をわたるらむとての袍 勅撰可然

途中 炎 炎

道の遠き程 下常門
下常門 初草乃宮
ちうるる也

浪門帰恋

なりひら 春の門
さ 初草乃宮

忘行不恋

いなせ 春の
岩よりとて 恋

[illegible]

依憑祈月

なるべしよろしく達磨の[illegible]年[illegible]の杜の高縄

[illegible]いつの[illegible]て年の[illegible]高や源[illegible]

祈願[illegible]世[illegible]

遥[illegible]

陽遠路点

深澤海[illegible]浦[illegible]ふ[illegible]塩の[illegible]正[illegible]紀中の通[illegible]

[illegible]

情人名点

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

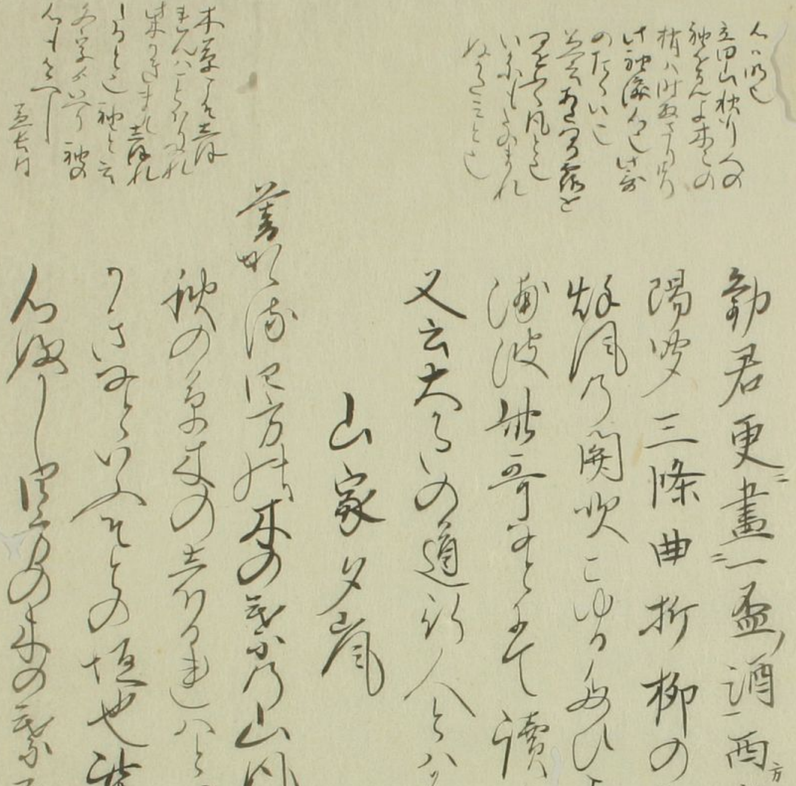
姥の水清龍川乃又日新一葉もうるをうるを
いふもきよく流るゝ蓬萊乃免行五百里翠水
ふく一葉もうるをうるを云爰を姥の水八清く流れきん
一葉もうるをうるをうるをうるみるを八墨ゆ小ゝ一葉を
うるをうるをうるを一葉もうるをうるを

春秋野拙

春野乃霞も霧も分孤松をのゝ木葉まの紅葉
をうるをうるをうるを月日乃経るを早く
うるをうるを

閑路行客

行人の影ともなるを行客の吹出るを笛の音



都君更盡一盃酒西出陽関無故人又四関
陽関三除曲折柳の歌と詠今宴行年此
姥乃関吹こゆる山乃あひとに故郷乃
海波世可ゝ清々乃色ハ月ハ月ハ
又云大ゝの通行人ゝ人を為て可見

山家夕雨

夕雨降ル方ハ山乃ふもとの道ハ雨の中
秋の夕の雨乃音ハ山ハ世俗ハ
つゝみ乃ふもとの庵也柴の戸乃
人ハ山乃ふもの家の神
山家夕雨乃神ゝ

心家人稀

古郷は見てもあはれや海きよし
世をそむく人の住みかは波ばかりなる
又云住人とわかこそ（さ）ぞ
人まれさ家とを訪して後ろ（こ）ぞ
ゆすて云ふなり

海路眺望

春の夜やあまの釣舟の波ぢより見ゆる小島のとまりかな
源ぢより月出る小島の浦をこぎ久しかはなきみな
ちいろくの人也旧なるこゝろ又云ふ歌の
人は陸奥ぢより京よりくだりて後ぞ

（注）海を京より潜て海の京氣をうるに波ぢの多り小島とは面白しあの小島より住人ぞ海の京氣とは云てもよしとも云ふ

序にて海辺よりて都を出しやりて後ぞよろ
波ぢより京ぢなる海辺の景ぢ
う吹こと云ふ人は春ぞ
人に告こと是は春風ぞ
人をとあの所にいてはる海路晴を絶
ぢく後ぞ作也

月四騎中友

名月夜宿りにて歌
白のくもりやすい色地の名をかし

一月のようにうつくしい色

旅宿夜雨

旅衣ぬるやものを夜の雨八神に祈て晴をもとめて

古郷有毋秋風淡旅寵無人誰問魂

[illegible]

[illegible]

又云旅宿[illegible]

[illegible]

[illegible]

海邊曉雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮仕のまゝ　家隆ハ七十以後従二位参議卿
俊成卿ハ清盛公孫　修理大夫朝臣の二男中納言
従二位　我代より友任上中納言ゝ儀　又云世哥ハ
新勅撰の後の百首ハ　歌の中ゝ
前様のもの　ゝ
ゝ　ゝ
なのゝ　引ゝ　撰ゝ
新勅撰ゝ撰ゝ　我詠
歌の中ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ

ゝ　又様路の通ゝ宮仕述懐の事ハ
いかゝ

述懐

九重ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

元年より六十年ハ世百首ハ年ハ[illegible]
[illegible]の友ハ[illegible]
年[illegible]ハ[illegible]ハ世百首七十二家の内

逐日懐舊

天の戸の明る日ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
無絶也

社頭祝言

[illegible]神[illegible]ハ[illegible]
世をほろぼす神ハ[illegible]

神[illegible]
[illegible]

[illegible]告神明[illegible]是ニ又云友の席ハ
世をほろぼす神ハ[illegible]

世百首[illegible]世上[illegible]
度〻[illegible]
[illegible]
[illegible]可破捨

石百首宗頂宗祇（[illegible]）
[illegible]年又関桂三條西後[illegible]

[illegible]月[illegible]の[illegible]

[illegible]書陵部[illegible]宗長[illegible]

[illegible]

京極黄門

安元元年乙未十二月任侍従十五歳朝廷小

[illegible]始[illegible]貞永元年壬辰新勅撰七十一

同二年[illegible]家七十二

故一冊小僧宗艮集而大成可謂勉矣

加一見耳

禱名野釋判

右上下巻禱名院叡法自判并宗艮

仮自筆写置者也

文禄三辛巳年如月下旬写之耳

法華経題目音一冊 法華院 空海 正本

Yakuo
7.3